

# 庄原市の概況

(令和8年4月)

**安心な暮らしが充実し、  
庄原に関わる人の未来がつながっていくまち**



**庄原市**

SHOBARA CITY

## 1. 沿革の概要

庄原市は、平成17（2005）年3月31日に、近隣の1市6町が新設合併し、誕生しました。

合併前の市町は、いずれも50年を超える歴史を刻み、西城町、東城町、口和町、高野町及び比和町は、5町で「比婆郡」を、総領町は、甲奴町（現・三次市）、上下町（現・府中市）とともに「甲奴郡」を構成していました。

合併前の状況は、次のとおりです。

旧庄原市	昭和29年	: 1町6村が合併し、旧庄原市が誕生
旧西城町	昭和29年	: 1町1村が合併し、旧西城町が誕生
旧東城町	昭和30年	: 1町6村が合併し、旧東城町が誕生
旧口和町	昭和30年	: 2村が合併し、口和村
	昭和35年	: 口和村が町制を施行し、旧口和町が誕生
旧高野町	昭和30年	: 2村が合併し、旧高野町が誕生
旧比和町	明治22年	: 5村が合併し、比和村
	昭和8年	: 比和村が町制を施行し、旧比和町が誕生
旧総領町	昭和30年	: 2村が合併し、旧総領町が誕生

### 合併までの経緯

#### ■研究協議会（首長・議長で構成）での経過概要

- 平成12年8月30日 庄原市・比婆郡5町の首長会議
- 平成12年12月12日 庄原市・比婆都市町村合併問題調査研究連絡協議会を設置
- 平成13年6月20日 第4回 研究協議会（総領町の加入）
- 平成14年3月8日 第9回 研究協議会（東城町の離脱）
- 平成14年3月27日 第10回 研究協議会

#### ■1市5町合併協議会での経過概要

- 平成14年4月1日 庄原市・比婆郡4町・総領町合併協議会を設置
- 平成15年8月27日 第16回 新市の名称を「庄原市」と確認
- 平成15年9月24日 第17回 合併協議会 以後、休止

#### ■1市6町合併協議会での経過概要

- 平成15年10月24日 庄原市・比婆郡5町・総領町合併協議会を設置
- 平成15年10月29日 第1回 合併協議会
- 平成16年3月9日 1市6町で合併協定に調印
- 平成16年3月10日～19日 1市6町の各議会において、合併関連議案を可決
- 平成16年7月22日 総務大臣の告示
- 平成17年2月24日 第12回 合併協議会
- 平成17年3月31日 庄原市誕生

## 2. 位置と面積

本市は、広島県の北東部、中国地方のほぼ中央に位置し、東は岡山県、北は島根県・鳥取県に隣接する“県境のまち”です。中国山地の山々に囲まれた河川沿いに広がる盆地や流域の平坦地に、複数の市街地と大小の集落を形成しています。

東西約53km、南北約42kmのおおむね四角形で、面積は香川県の3分の2に相当する1,246.49km<sup>2</sup>。広島県の約14%を占め、全国自治体の中で14番目（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」参照）、近畿以西では最大の広さ（令和7（2025）年10月1日現在）となっています。

### ■ 広島県における庄原市の位置

広島県14市9町  
令和8年4月1日現在

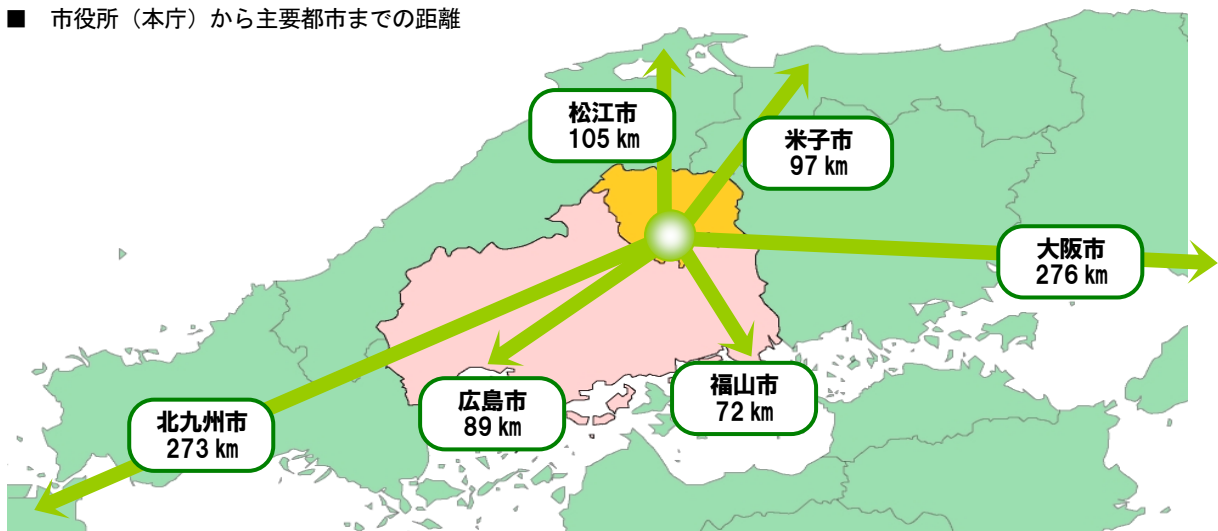


### ■ 庄原市の位置

方位等	経緯度	
東端	東経133° 19′ 53″	北緯34° 51′ 21″
西端	東経132° 45′ 48″	北緯34° 59′ 34″
南端	東経133° 6′ 38″	北緯34° 44′ 5″
北端	東経132° 53′ 18″	北緯35° 6′ 20″
市役所	東経133° 1′ 0″	北緯34° 51′ 28″

資料：国土地理院 世界測地系

### ■ 市役所（本庁）から主要都市までの距離



## ■ 地域指定等

区分	地域
過疎地域	全域
豪雪地帯指定地域	西城・東城・口和・高野・比和地域
低開発地域工業開発地区	庄原地域
中山間地域	全域
瀬戸内海環境保全に係る指定地域	西城・東城地域の一部
大規模行為届出対象地域	庄原・西城・東城・高野地域
自然公園	比婆道後帝釈国定公園、神之瀬峡県立自然公園
県自然環境保全地域等	八国見山、指谷山、神之瀬峡、猫山、吾妻榎原谷、五品岳、葦嶽山、大富山城跡
特定農山村地域	全域（ただし庄原地域の一部を除く）
振興山村地域	全域（ただし庄原・東城・総領地域の一部を除く）
農村地域への産業の導入の促進等に関する法律の適用地域	全域
農業振興地域	全域
都市計画区域	庄原・西城・東城地域の一部
宅地造成登校時規制区域及び特定盛土等規制区域	全域

資料：広島県地域指定等区分図

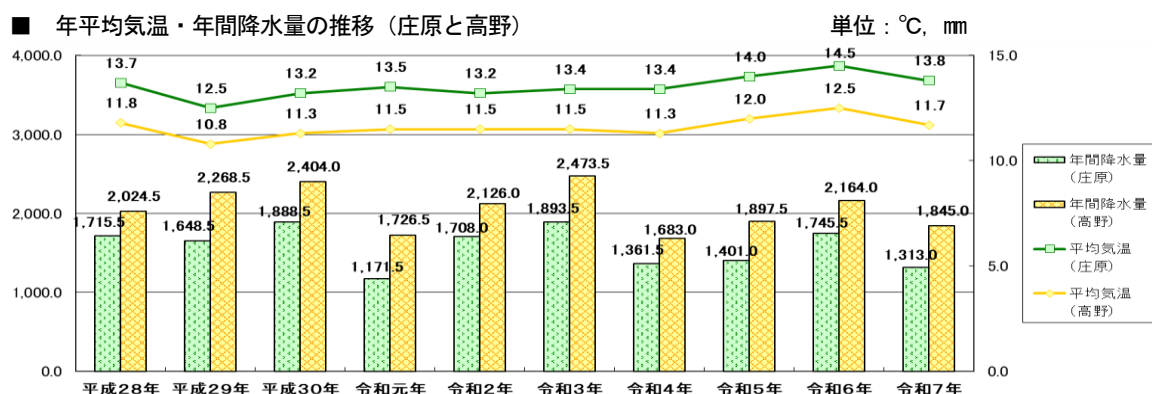
## 3. 自然環境

本市の地形は、標高150～200mの盆地をはじめ、一般的に緩やかな起伏の台地を形成しています。北部の県境周辺部は、県内有数を誇る1,200m級の高峰と森林に囲まれ、この地の沢を源流域とした河川は「江の川水系」と「高梁川水系」に分岐し、日本海、瀬戸内海に注いでいます。

こうした地理的環境は、水と緑に恵まれた豊かな自然環境をつくり、中山間地域ならではの心やすらぐ里山景観を生み出しています。

また、広大な区域面積や中国山地に囲まれた地理的状况から、北部と南部では気象条件が異なり、特に気温、降水量、積雪量の多寡などにおいて違いがあります。

### ■ 年平均気温・年間降水量の推移（庄原と高野）



資料：気象庁HP

## 4. 人口・世帯数

### (1) 人口の減少

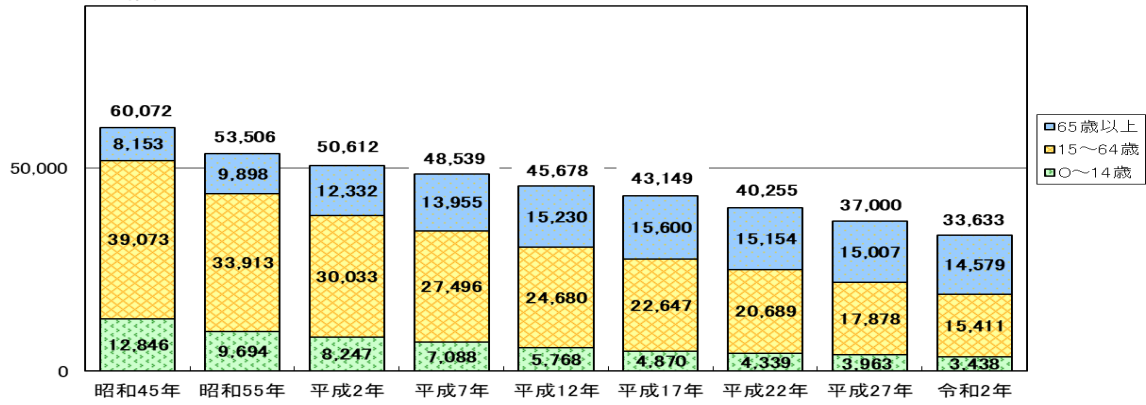
本市の人口は、昭和35（1960）年の国勢調査で81,162人でしたが、高度経済成長期における若年層の流出によって著しい減少を招き、以後も減少で推移しています。

令和2（2020）年の国勢調査では、33,633人となっており、平成22（2010）年からの10年間で6,611人、平成27（2015）年からの5年間でも3,367人の減少となっています。

令和8（2026）年3月31日時点の住民基本台帳人口は、30,059人となっており、令和2（2020）年の国勢調査の人口から3,574人の減少となっています。

■ 人口の推移

単位：人



注) 年齢不詳人口があるため、必ずしも合計人口と一致しない。

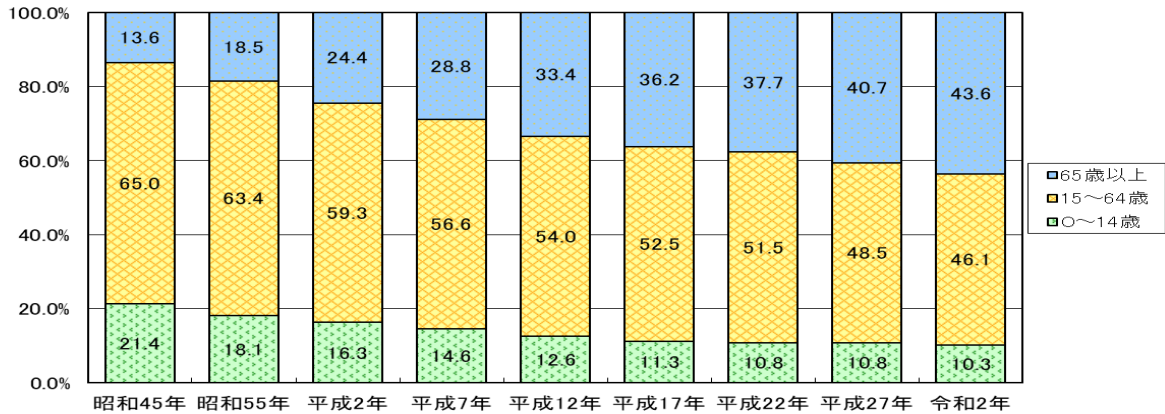
資料：国勢調査

(2) 少子高齢化の進行

本市の年齢階級別人口割合は、昭和45（1970）年から令和2（2020）年までの50年間で、年少人口（0～14歳）が11.1ポイント、生産年齢人口（15～64歳）が18.9ポイント低下しています。しかし、老年人口（65歳以上）は30.0ポイント上昇しており、急速に少子高齢化が進行しています。

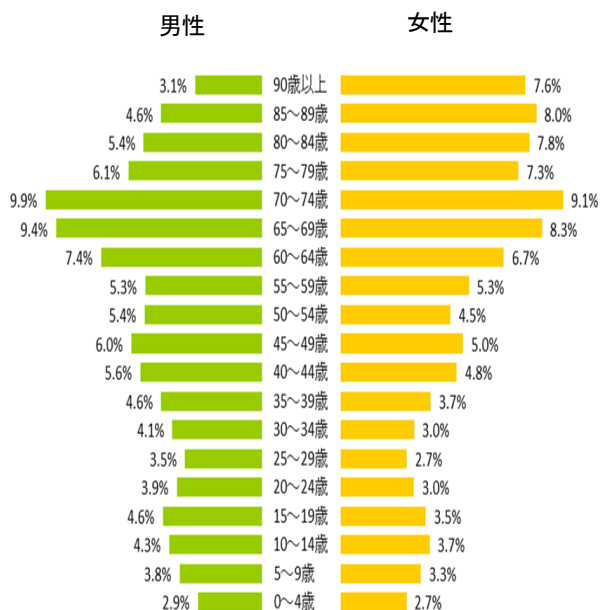
■ 年齢階級別割合の推移

単位：%



資料：国勢調査

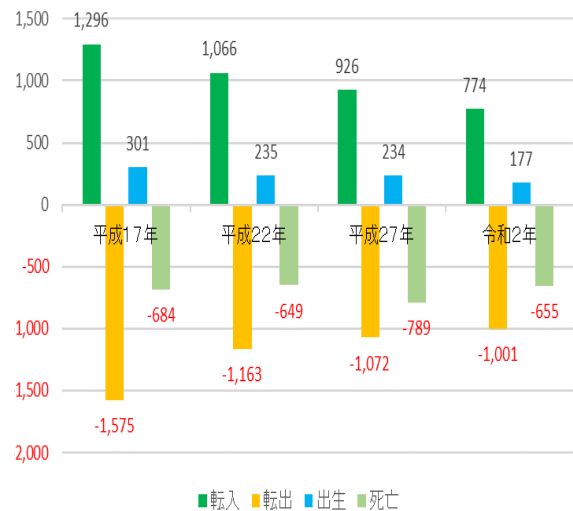
■ 人口ピラミッド



資料：国勢調査（令和2〔2020〕年）

■ 人口動態の推移

単位：人



資料：人口移動統計調査

注) 各年集計は、前年10月から当年9月までの間

■ 人口増減の推移

単位：人

	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
社会増減	-264	-43	-146	-227
自然増減	-383	-414	-555	-478
人口増減	-647	-457	-701	-705

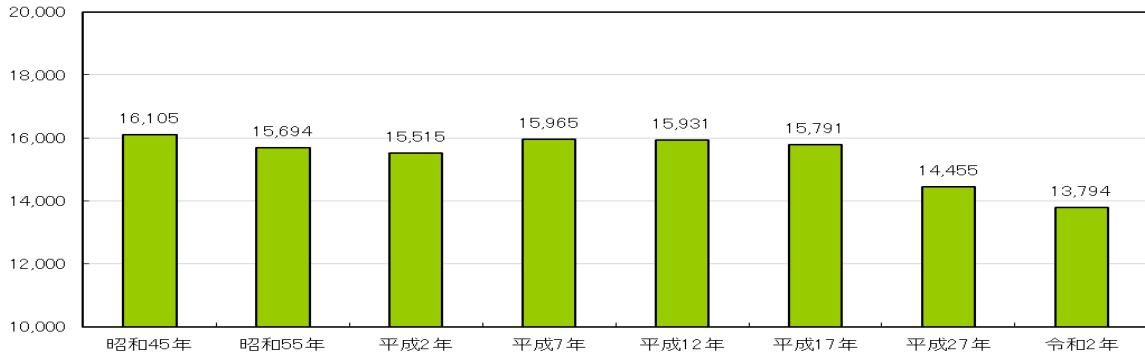
資料：人口移動統計調査

注) 社会増減は人口増減から自然増減を差し引いて算出。

(3) 世帯数

■ 世帯数の推移

単位：世帯



資料：国勢調査

5. 産業

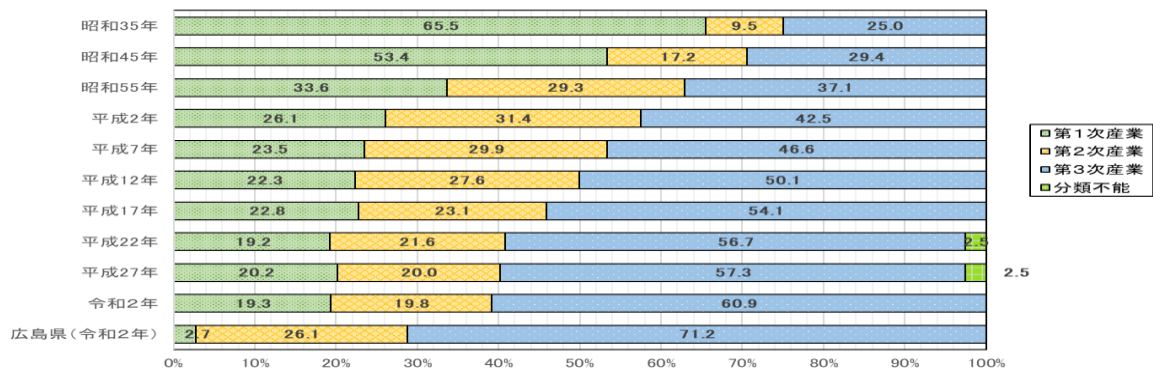
(1) 産業別人口

本市の産業別人口の割合をみると、第一次産業（農林漁業）の従事者割合が平成27（2015）年に比べ0.9ポイント減少し、令和2（2020）年では19.3%となっています。令和2（2020）年の広島県全体の割合が2.7%という状況を踏まえれば、依然として第一次産業が本市の主要な産業であることに変わりはありません。

第二次産業（製造業・建設業等）の従事者割合は低下に転じており、本市における産業の中心は第三次産業（小売業・サービス業等）へと移行しています。

■ 産業別人口割合の推移

単位：%



資料：国勢調査

(2) 農業

本市の農業は、古くから基幹産業として受け継がれており、米・野菜・花き・果樹などの農作物、和牛・乳牛・豚・鶏の飼養など、多種多様な内容で構成されています。

しかし、総農家数は減少を続け、令和2（2020）年では3,695戸と、平成22（2010）年からの10年間で1,754戸（32.2%）減少しています。一方、広島県全体に占める本市の農家割合は、変わらず8.2%となっています。

農業就業人口も減少傾向にあり、令和2（2020）年では、3,168人となっています。

また、令和2（2020）年の年齢別農業就業人口では、65歳以上が83.1%を占めており、高齢

者が本市の農業を支えている構造となっています。

■ 総農家戸数の推移

単位：戸，%

	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
庄原市	7,639	7,033	6,491	6,073	5,449	4,676	3,695
広島県	102,936	92,197	82,240	74,032	66,321	56,673	45,335
広島県内の割合	7.4	7.6	7.9	8.2	8.2	8.3	8.2

資料：農林業センサス

■ 令和2年 農業就業者、経営耕地面積

単位：人，%，km<sup>2</sup>

	農業就業者数	65歳以上就業者 人口割合	経営耕地面積
庄原市	3,168	83.1	46.8
広島県	24,534	83.5	289.8
広島県内の割合	12.9		16.1

資料：農林業センサス

(3) 林業

本市の林業は、木材・林産物の生産を中心に、薪の利用やきのこの採取など、集落生活に密着した循環型の資源利用が行われてきました。

一方で、昭和30年代から40年代を中心に植栽されたスギやヒノキの人工林が主伐時期を迎えています。昭和50年代半ばからの長期的な木材価格の低迷により、木材生産量の低下が続いています。また、森林を保有している林家数も減少を続け、平成2（1990）年から令和2（2020）年までの30年間で35.1%減少しています。

■ 総林家戸数の推移

単位：戸，%

	平成2年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
庄原市	5,608	5,055	4,686	4,599	4,178	3,637
広島県	53,318	50,455	46,818	44,867	41,953	35,928
広島県内の割合	10.5	10.0	10.0	10.3	10.0	10.1

資料：農林業センサス

(4) 商業

本市の商業は、郊外大型店や大手チェーン店などの台頭、高速交通網の充実に伴う大都市商圏への消費者流出、オンラインでの商品注文・購入の増加、人口減少による消費低迷などが影響し、商店数（事業所数）は、平成9（1997）年から令和3（2021）年までの24年間で507事業所（55.4%）が減少し、年間商品販売額も約233億円（35.2%）の減少となっています。

■ 商店数の推移

単位：事業所，%

	平成9年	平成14年	平成16年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	令和3年
庄原市	915	830	772	693	580	561	531	408
広島県	44,015	40,708	39,264	35,839	34,350	34,332	33,337	30,092
広島県内の割合	2.1	2.0	2.0	1.9	1.7	1.6	1.6	1.4

資料：経済センサス-活動調査結果

■ 商業従業者数の推移

単位：人，%

	平成9年	平成14年	平成16年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	令和3年
庄原市	3,446	3,718	3,497	3,300	2,663	3,059	2,977	2,341
広島県	282,192	289,445	278,214	262,675	260,532	268,663	268,104	264,840
広島県内の割合	1.2	1.3	1.3	1.3	1.0	1.1	1.1	0.9

資料：経済センサス-活動調査結果

■ 年間商品販売額の推移

単位：百万円，%

	平成9年	平成14年	平成16年	平成19年	平成24年	平成26年	平成28年	令和3年
庄原市	66,367	55,628	49,218	48,557	35,657	42,626	45,568	42,996
広島県	14,432,120	12,567,940	11,992,582	11,868,448	10,510,505	10,456,235	12,476,488	11,487,755
広島県内の割合	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4

資料：商業統計調査・経済センサス

(5) 鉱工業

本市の工業は、機械器具、窯業、電子部品、食料品をはじめとする製造業や建設業が中心となっています。

工業事業所数は、調査対象事業者の範囲が変更となった令和4（2022）年の85事業所以降、2事業所減少していますが、製造品出荷額は近年増加傾向で推移しています。令和5（2023）年の出荷額は、令和3（2021）年から約38億円増加し、約515億円となっています。

本市の鉱業は、ろう石、カオリナイト、炭酸カルシウムに代表される「白色鉱物」を中心にしており、その産出は全国有数となっています。

経済センサスと経済構造実態調査で集計方法が異なるため、表を分けています。

経済センサス：個人経営を除くすべての事業所

経済構造実態調査：従業員4人以上の事業所

■ 工業事業所数の推移

単位：事業所，%

	平成28年	令和3年
庄原市	84	70
広島県	5,661	4,812
広島県内の割合	1.5	1.5

資料：経済センサス

令和4年	令和5年	令和6年
85	84	83
5,893	5,900	5,871
1.4	1.4	1.4

資料：経済構造実態調査

■ 工業従業者数の推移

単位：人，%

	平成28年	令和3年
庄原市	2,124	1,466
広島県	211,902	207,756
広島県内の割合	1.0	0.7

資料：経済センサス

令和4年	令和5年	令和6年
1,793	1,756	1,822
212,956	214,241	214,305
0.8	0.8	0.9

資料：経済構造実態調査

■ 製造品出荷額の推移

単位：百万円，%

	平成27年	令和2年
庄原市	50,735	33,607
広島県	10,342,775	8,869,857
広島県内の割合	0.5	0.4

資料：経済センサス

令和3年	令和4年	令和5年
47,716	51,287	51,544
9,943,935	10,692,258	11,476,455
0.5	0.5	0.4

資料：経済構造実態調査

(6) 観光

本市は、比婆道後帝釈国定公園をはじめ、中国山地の豊かな自然環境に恵まれ、トレッキングやスキー、キャンプなど、豊富なアウトドアメニューを楽しむことができます。

また、近年は広大な花畑を有する国営備北丘陵公園や、自邸の庭を公開する「オープンガーデン」、節分草などの山野草の保存・公開など、「花と緑」をテーマとした交流が盛んに行われています。

本市の入込観光客数は、平成18（2006）年の約223万人以降、減少傾向で推移していましたが、松江自動車道開通を契機として、平成27（2015）年に過去最多の約225万人となりました。令和2（2020）年は、3月以降の新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、市内各地の観光施設の休業やイベントの中止が相次いだほか、年間を通じて外出自粛の動きが見られたこと

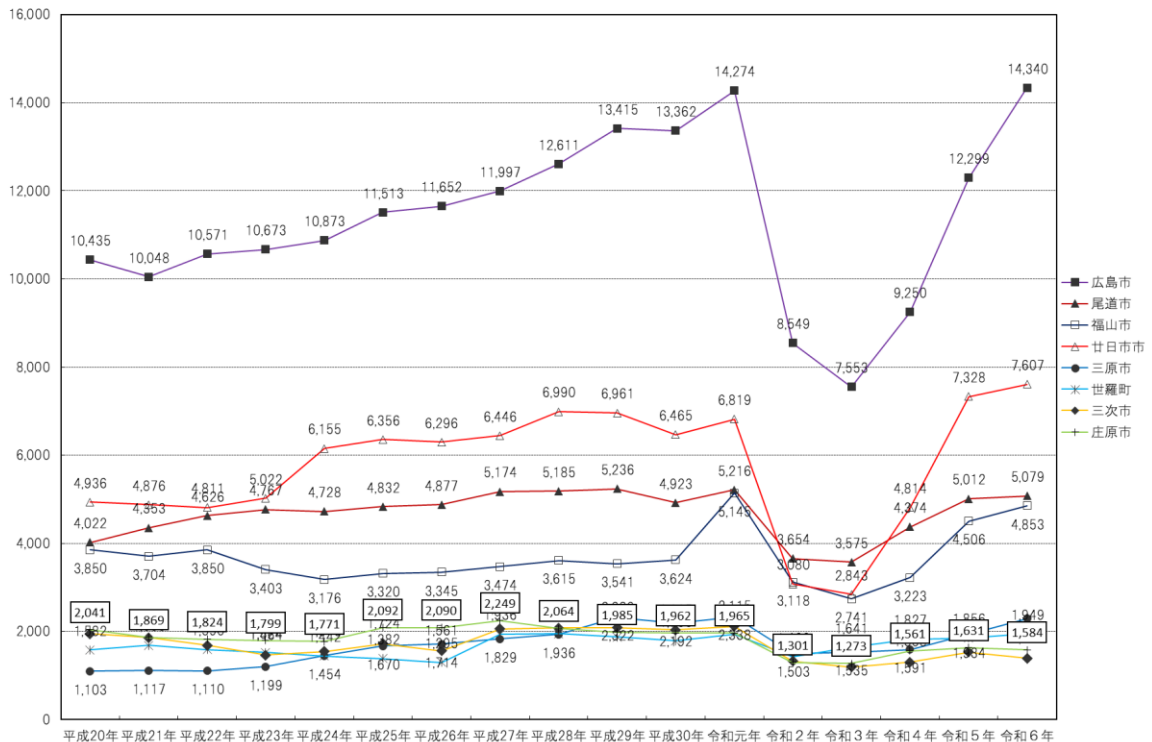
などにより、約130万人と大幅に減少しました。令和4（2022）年については、前年から増加し、約156万人となっています。

■ 市内の主な観光資源



■ 庄原市と県内主要観光地の入込観光客数の推移

単位：千人



資料：広島県入込観光客数の動向

## 6. 土地利用

### (1) 土地利用

市域の84%は森林が占めており、平坦な土地が比較的少ないことから、宅地などの利用は河川流域や盆地などに限られています。

用途別土地利用の割合は、都市計画区域が6.1% (76.13km<sup>2</sup>)、農業振興区域が88.0% (1,096.39km<sup>2</sup>) となっており、農林業を中心とした土地利用となっています。

#### ■ 森林面積の内訳

単位：km<sup>2</sup>，%

	森林面積							森林面積 以外	合 計
	民有林					国有林	計		
	人工林	天然林	竹林	未立木地	更新困難地				
面 積	437.97	516.90	2.14	20.50	1.91	69.82	1,049.24	197.25	1,246.49
構成割合	35.1	41.5	0.2	1.6	0.2	5.6	84.2	15.8	100.0

資料：広島県林務関係行政資料

#### ■ 用途別土地利用の状況

単位：km<sup>2</sup>，%

	都市計画 区域	農業振興区域				その他	合 計
		農用地	山林原野	その他	計		
面 積	76.13	82.15	935.95	78.29	1096.39	73.97	1,246.49
構成割合	6.1	6.6	75.1	6.3	88.0	5.9	100.0

資料：広島県の都市計画，庄原農業振興地域整備計画

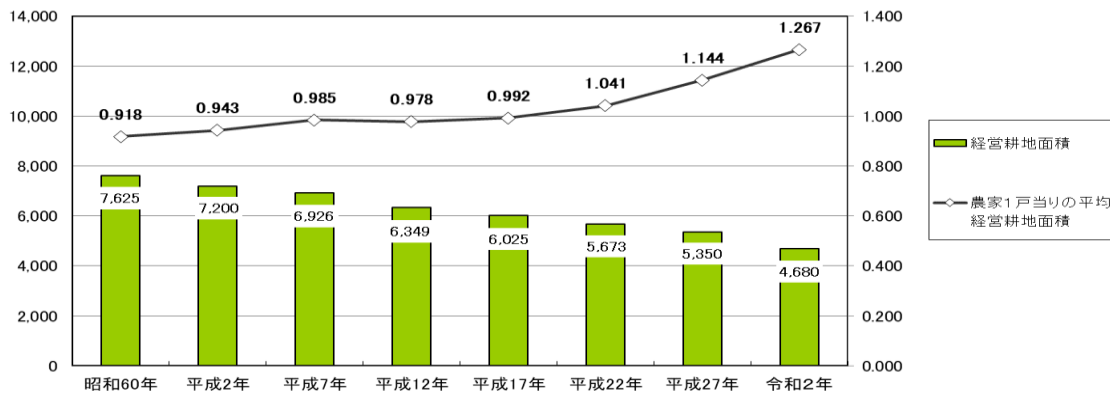
### (2) 農地利用

本市の経営耕地面積は年々減少し、令和2（2020）年では4,680haとなっています。

また、ほ場整備の全体整備率は93.8%となっており、計画区域における整備は概ね完了しています。

#### ■ 経営耕地面積と農家一戸当たりの平均経営耕地面積

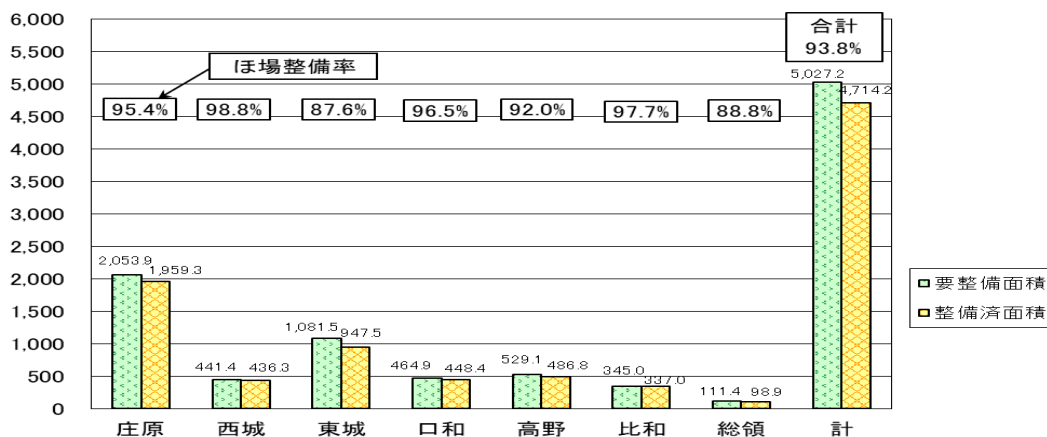
単位：ha



資料：農林業センサス

#### ■ ほ場整備の実施状況

単位：ha



資料：県農業基盤課調べ（令和8年3月31日現在）

## 7. 社会基盤

### (1) 道路網の整備

本市の道路網は、昭和53（1978）年に開通した中国縦貫自動車道の2つのインターチェンジ（庄原IC、東城IC）を中心として東西・南北に国道・県道が整備され、市内の各地域を結んでいるほか、市道や農道・林道が生活道路として利用されています。

加えて、平成27（2015）年3月に中国横断自動車道尾道松江線（中国やまなみ街道）が全線開通し、整備中の地域高規格道路（江府三次道路）を含めて広域的な交通条件は向上しています。

### (2) 鉄道・生活交通

鉄道はJR芸備線・木次線を、バスは高速道路を介して、広島市や山陰を結ぶ都市間交通に位置付けられています。

鉄道利用者は、平成27年度以降、増加傾向で推移していましたが、平成30年度の乗客数は、平成30（2018）年7月豪雨災害によりJR芸備線が被災した影響で大きく減少しています。

一方、高速バスは、本市と広島市を結ぶ主要な公共交通機関として、利用者のニーズや利便性に配慮した交通体系が維持されています。

また、本市では、市民の居住区域やニーズ、道路や事業者の状況など、地域実情に応じた多様な形態での外出・移動手段を確保しています。

#### ■ JR芸備線（広島市～岡山県新見市） 駅数14所 おもな駅の年間乗客数

年度	備後庄原駅	備後西城駅	東城駅	合計	対前年比
平成27年度	48,056人	15,440人	3,718人	67,214人	121.53%
平成28年度	52,035人	17,295人	3,758人	73,088人	108.74%
平成29年度	55,021人	15,930人	4,504人	75,455人	103.24%
平成30年度	42,174人	12,378人	3,852人	58,404人	77.40%
令和元年度	46,405人	13,157人	3,876人	63,438人	108.62%
令和2年度	40,903人	12,781人	3,429人	57,113人	90.03%
令和3年度	39,764人	10,801人	2,999人	53,564人	93.79%
令和4年度	42,440人	10,535人	4,631人	57,606人	107.55%
令和5年度	49,162人	12,538人	4,109人	65,809人	114.24%
令和6年度	45,534人	11,558人	4,224人	61,316人	93.17%
令和7年度	41,888人	14,894人	4,797人	61,579人	100.43%

資料：JR西日本調べ

#### ■ 庄原市の交通

種別	事業主体	実施形態	実施地域						
			庄原	西城	東城	口和	高野	比和	総領
路線バス	事業者	補助	○	○	○	○	○	○	
廃止代替等バス	事業者	補助		○	○				
地域生活バス	事業者	補助	○						
市街地循環バス	事業者	補助	○		○				
市営バス	市	委託	○					○	○
予約乗合タクシー（定路線）	市	委託		○	○	○		○	
予約乗合タクシー（戸口）	市	委託				○	○		
市民タクシー	住民自治組織	補助	○	○	○				
公共交通空白地有償運送	非営利団体等	補助							○

資料：地域交通課調べ（令和8年4月1日現在）

### (3) 上下水道

本市では、上水道・簡易水道および井戸掘削などにより飲料水を確保しています。

令和7（2025）年3月末日における水道普及率は78.7%となっており、平成18年度以降上昇していますが、県内平均の95.4%を大きく下回っています。

生活排水などの汚水は、公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽を中心に処理していますが、令和7（2025）年3月末日における汚水処理普及率は75.8%となっており、県内平均の91.0%を大きく下回っています。

### (4) 都市公園

本市では、平成7（1995）年4月に、中国地方では初めてとなる国営の備北丘陵公園が一部開園し、平成24（2012）年4月には全園開園されています。

同公園は、昭和初期の暮らしを感じることでできるふるさと景観、コスモスやチューリップなどの花畑、大規模な野外コンサート広場、キャンプ場といった多様なレクリエーション環境が整っており、年間約45万人を超える入場者が訪れる本市観光の中核施設ともなっています。

また、平成30（2018）年3月24日から国営備北丘陵公園の一部に交流ゾーン（無料）を設置し、様々な情報発信や地域物産の販売、地域の交流拠点として活用する「国営備北丘陵公園北入口エリア社会実験事業」に取り組んでいます。

なお、同公園のほか、市内には上野総合公園、庄原北公園、東城中央運動公園などの都市公園が所在しますが、広大な備北丘陵公園を有していることから、都市計画区域内における市民一人当たりの公園等面積は、県内市の中でも突出しています。

## 8. 医療環境

平成17（2005）年4月以降、産科医療の休止状態が続き、1日も早く市内での出産を可能とすることが喫緊の課題となっていました。平成30（2018）年4月から産科医療を再開しています。

また、市内の小児科診療所は庄原赤十字病院のみで、勤務医の負担が大きい状況となっていました。小児科医師確保の取り組みを行い、小児科医師が確保されたことにより、平成29年度から小児科診療所の整備に着手し、平成30（2018）年7月から小児科診療を開始しています。

## 9. 教育環境

### (1) 学校教育

本市では、現在、小学校13校、中学校7校となっており、平成30（2018）年1月に策定した「庄原市立学校適正規模・適正配置基本計画」に基づき、今後適正規模・適正配置に取り組むこととしています。

また、市内には県立高等学校が4校、特別支援学校、県立大学、農業者技術大学校が各1校、私立小学校が1校、私立幼稚園が1園あります。

### (2) 社会教育

主な社会教育施設として、庄原市民会館・東城文化ホールのほか、図書館（分館を含む）が7施設、郷土資料館・博物館が5施設あります。また、平成26年度までに、すべての公民館を自治振興センターに移行しています。

主な社会体育施設として、体育館・屋内体育施設6施設、総合運動公園・屋外体育施設15施設、水泳プール（学校プールを除く）5施設などを設置しています。

## 10. 市内に立地する主な施設

施設名		所在数
警察署	警察署	1
	交番	2
	駐在所	12
消防署	消防署	2
	出張所	3
税務署		1
郵便局		22
公共職業安定所		1
簡易裁判所		1
国営備北丘陵公園事務所		1
国営備北丘陵公園管理センター		1
県立畜産技術センター		1
県庄原庁舎（北部農林水産事務所・北部建設事務所庄原支所）		1
道の駅		3
郷土資料館・博物館		5
病院及び診療所	病院	5
	一般診療所	33
	歯科診療所	18

施設名		所在数
県立大学		1
県立大学校		1
県立高等学校		4
県立特別支援学校		1
市立中学校		7
私立小学校		1
市立小学校		13
私立幼稚園		1
市立保育所		7
市立保育所（指定管理）		8
私立保育所		1
認定こども園		1
地域型保育事業所		3
金融機関	銀行（支店）	3
	信用金庫（支店含）	6
	農業協同組合（支店含）	9
ゴルフ場		1
ボウリング場		1
大規模小売店舗		11

資料：経営戦略課調べ 令和8年4月1日更新

## 11. 自治振興区を主体としたまちづくり

本市では、自治振興区を中心とした住民自治組織が活発に活動しており、庄原市まちづくり基本条例に定める責務と役割に基づいて、参画と協働によるまちづくりを推進しています。

また、それぞれの自治振興区域には活動拠点となる自治振興センターが立地しており、本市の広大な区域面積を優位性として捉えながら、それぞれの地域の多様な個性を活かし、絆を大切にしたいまちづくりを展開しています。

### ■ 地域別の自治振興区数

地域名	庄原	西城	東城	口和	高野	比和	総領	合計
自治振興区数	8	2	7	1	2	1	1	22

公共施設の位置（市役所・支所・自治振興センター・図書館）

